

十勝の土壌と農業

Part 1

筒木 潔

帯広畜産大学名誉教授

土壌学

<https://tsutsuki.net>

Part 1

1643年にオランダ人が作成した北海道の古地図

- 西欧人にとっても和人にとっても北海道は最後の秘境であった。

Map of Japan/Hokkaido, Amsterdam ヤン・ヤンソニウス (1658)



十勝がTakapsy、白糠がSivarca、日高山脈は「雪の山脈」、阿寒は「青い山」と記載されている。



地図の説明

北構保男氏、北海道の古地図展（2013 根室）にて

ヤン・ヤンソニウス

日本・エゾおよび周辺諸島図

アムステルダム 1658年 銅版 手彩色（「新地図帳」より）

オランダの航海者フリースの1643年のエゾ地周辺航海の成果を十分に利用したもっとも初期の地図の一つである。オルテリウス／テイセイラ型の日本図の北方にフリースのエゾ地図を追加しているが、津軽海峡が著しく広いのは、北海道南部と東北地方北部が欠けているためである。

フリースによる日本北東海域調査 (1643)

- M. G.フリースはオランダの東インド会社に所属した船長で、1643年に、「金と銀の島」を探索する目的で北海道周辺から樺太までを往復航海しました。航海の途中、十勝沖、歯舞諸島、国後島、樺太沿岸2箇所、厚岸に立ち寄り、アイヌの住民と交流しています。
- アイヌの人たちは穏やかかつ積極的で、フリース一行と心温まる交流をしています。
- 各地の地名もその時の会話を通じて聞き知りました。

フリースによる日本北東海域調査 (1643)

- 当時日本は鎖国時代であったため、偶然会うことになった和人たちとはあまり良い交流ができなかったようです。
- 当時、日本にも詳しい北海道の地図はなく、アイヌの人々の民状についてもほとんど知られていなかったため、フリースらによる調査の価値は非常に大きかったと言えます。

北構保男著

「一六四三年アイヌ社会探訪記-フリース船隊航海記録-」より